

# N部門

(知的障害教育部門)

文字・言語の獲得前の教材

教材ガイド



平成27年度作成

東京都立鹿本学園

## 目 次

- えほん「こちょこちょ」みんなの顔編
- 同じはどれかな？
- お花を植えよう、摘もう！
- チューブを棒に差し込む
- なかまはどっち？
- なかまわけ
- もとちゃんの「前後」「左右」に動いてみよう
- 運筆教材
- 消しゴムパズル
- 色のマッチング
- 色分け課題
- 赤と青を見比べよう
- 大小と色の弁別
- 同じマークをさがそう！
- 虹の棚
- 微細運動（色分け）

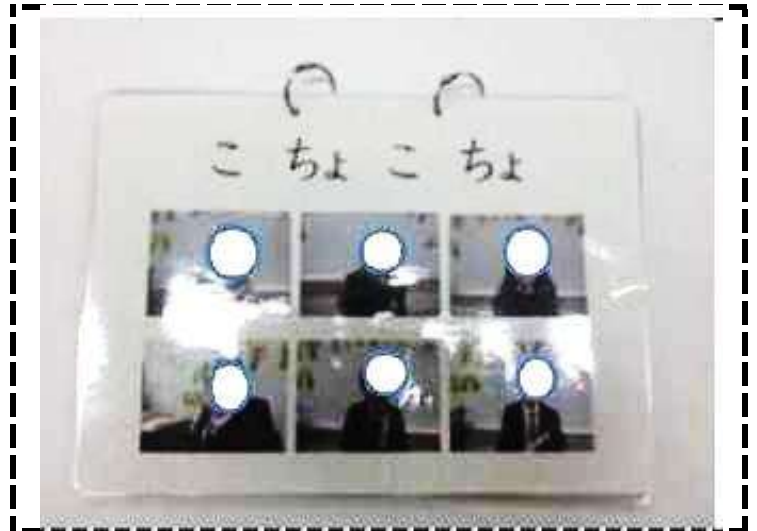
# えほん『こちょこちょ』みんなの顔編 ～よく見て、くすぐってみよう～

## 対象児童・生徒

- ・対象物を注視することが苦手な児童向けの教材です。
- ・皮膚刺激等を通して身体感覚を高めたい児童向けの教材です。
- ・やり取りが苦手な児童にコミュニケーションを促す教材です。

N 小1 重度・重複学級

太田ステージ I ~ II



## ねらい

- ・自分の写真を注視して、触れることができる。
- ・教員からの働きかけを受け入れる。

- ・リングで取り外しができるようにしたことで、当日の児童の様子等に応じて適宜、順番を変えられるようにした。
- ・児童が好きな絵本に児童を登場させることで、関心を促した。
- ・主に毎朝の自立活動の集団活動の場面で使用。

## 教材の使い方 (指導方法)

・最初に絵本『こちょこちょ』の読み聞かせを行う。それを受けて、教材の読み聞かせを行う。

①児童の写真が出てくる。「〇〇くん」と読む。

②「〇〇くんも・・・」と言いながら、ページをめくる。

③くすぐられている写真を示し、「こちょこちょ・・・」と言いながら、体をくすぐる。

④以下、児童全員に行う。

# おなじはどれかな？

## 対象児童・生徒

・重度・重複学級の、自立活動(課題学習)の時間に使用している。  
物の名称を覚えたり、同じものを合わせたり、色や形を覚えたりしている児童である。

N 小1 重度・重複学級

太田ステージ I



## ねらい

・物の名前を理解する。  
・同じものが分かる。(写真と写真 カラーの絵と絵 白黒の絵と絵 写真とカラーの絵 写真と白黒の絵 カラーの絵と白黒の絵 など)

・身近な物を題材にしている。  
・色は、分かりやすく赤、黄、青、緑の4色。  
・1シートで3つまでの課題とし、課題の量が多すぎないようにしている。シートは3枚用意し、徐々に課題を増やしていけるようにしている。

## 教材の使い方 (指導方法)

### <ファーストステップ>

- ①カードを1枚見せて、物の名前を確認させる。(分からないときは教え、復唱させる。)
- ②カードをシートの上段に貼る。(最初は教員が貼る。慣れてきたら児童が貼る。)
- ③次に同じカードを見せて、児童に渡しシートの下段に貼るように指示する。
- ④上下が同じことを確認する。

### <セカンドステップ>

・合わせるカードを 写真と写真から、写真とカラーの絵、写真と白黒の絵等、ステップアップしていく。

### <サードステップ>

・課題の数を1から3に徐々に増やしていく。1シート(3課題)できるようになったら、2シート、3シートと課題を増やしていく。



# お花を植えよう、摘もう！

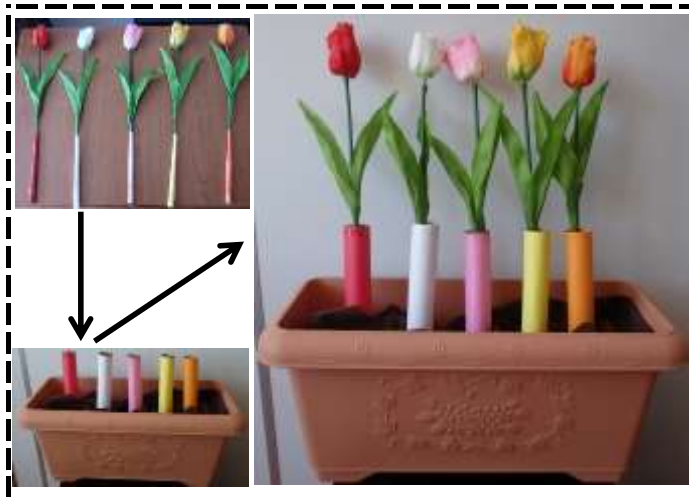
## ～同じ色の筒にマッチング～

### 対象児童・生徒

- ・国語・算数で使用をします。
- ・目と手の協応動作が苦手な児童・生徒に興味をもって取り組めるようにしています。
- ・一対一対応のマッチング、色の弁別の発達段階への児童・生徒が取り組めるようにしています。

N 小6 重度・重複学級

太田ステージ I ~ II



### ねらい

- ・筒の中にお花を植えることができる。
- ・同じ色の筒の中にお花を植えることができる。
- ・植えてあるお花を摘むことができる。

- ・造花を使用することで、何度も繰り返し使うことができ、お花を見て楽しむことができる。
- ・児童・生徒が手で触って感触を味わいながら取り組むことができる。
- ・同じ色のマッチングに取り組むことができる。
- ・筒の色を外すと色の弁別の発達段階でなくても一対一対応の活動ができる。



### 教材の使い方 (指導方法)

- ・国語・算数で集団活動で使用をします。
- ・最初に教員がお花植えて、同じ色の筒にお花をマッチングで植えているところを見せる。
- ・一本ずつ植えたり、摘んだりを教員と一緒に取り組む。
- ・一人ずつ前に出てきて、植える・摘む活動をする。他の児童・生徒は友達がやっているのを見て自分の順番が来るのを期待をしながら待つ。
- ・児童・生徒の発達段階に応じてお花を1本ずつ渡したり、5本全部を渡したりの支援をする。
- ・一対一対応で筒に植えられるようになったら、指定された筒にお花を植えられるようにする。
- ・お花を植えることが難しい児童・生徒は、ガゴを持って、その中にお花を摘んで入れる。

#### <お花摘みの手順>

カゴを持って、一本ずつお花を摘んで、ガゴに入れる。



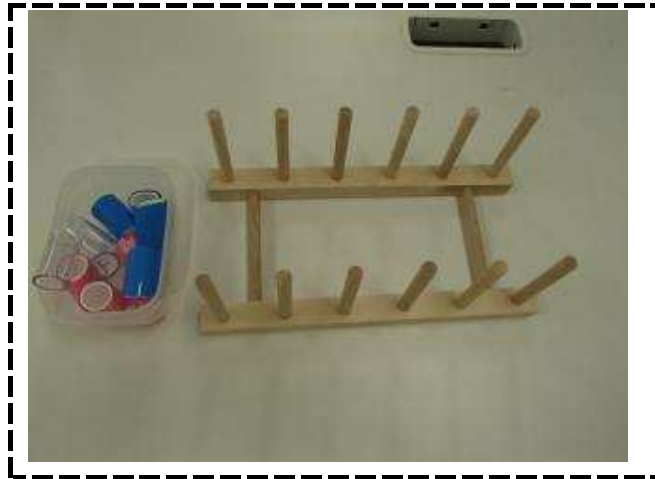
# チューブを棒に差し込む ～目と手の協応：一対一対応の学習～

## 対象児童・生徒

・ 中学部2年生、重度重複学級の生徒を対象とする。対象物のチューブを親指・人差し指で掴むことや棒の先に注意を向けられることが課題の生徒が対象である。

N 中2 重度・重複学級

太田ステージ I ~ II



## ねらい

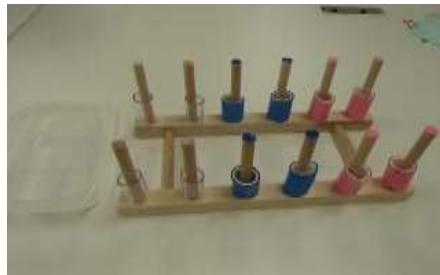
・ 個別学習の授業で、教員と一緒に練習するための教材です。対象物のチューブを親指・人差し指で掴み、棒をよく見て課題に注意を向けられるようになる。次は、チューブを指で差し込むことができるようになったら、棒の先に示した色の違いに気づくようになる。

・ 100円ショップでお皿の簡易整理枠を購入して、組み立てる。  
・ 蛇口の先に付けるゴムホースを3色、数センチずつに切って使用する。  
・ お皿の簡易整理枠は、色印の無いものとある物の2種類を準備した。  
・ 現在は、教員と一緒にチューブを持ち、棒に差し込む練習をしている。2～3個差し込むと注意が散漫になる。

## 教材の使い方 (指導方法)

**活動：対象物をよく見て、教員と一緒にチューブを指で持ち棒に差し込むことを練習する。**

- ・ 活動①：何色でもいいので、棒にチューブを差し込む。
- ・ 活動②：①ができるようになったら、色シールを棒の先にはり、同じ色のチューブを差し込む。



# なかまはどっち？

～カテゴリー別に分けよう～

## 対象児童・生徒

・用途や機能などでの分類を始める前に、初歩的な概念で分類することを学んでいる児童に対して使用している。

N 小1 知的障害学級

太田ステージ III - 1



## ねらい

乗り物、果物、動物など共通の性質にしたがって分類する。

・プラスチックボードにイラストを貼り付け、裏に強力な磁石を付け、ホワイトボードにくっつきやすいようにした。

・国語・算数の個別課題で使用。

## 教材の使い方 (指導方法)

①2種類のカテゴリー(果物と乗り物など)のイラストカードを箱などに入れておく。

②1つずつ手渡し、果物なのか乗り物なのかを児童と一緒に確認する。

③果物あるいは乗り物に分けてホワイトボードに貼るよう促す。

# なかまわけ ～物を分別する力を育てる～

## 対象児童・生徒

絵カード等でのマッチング課題を達成し、物の用途や種類が意識できるようになってきた児童が対象となる。

N 小3 自閉症学級

太田ステージ II



## ねらい

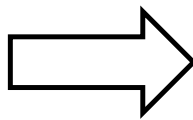
- ・物を用途や種類で分別する力を育てる。
- ・物の用途や名称、動物の名称等を理解できるようにする。

## ポイント

- ①絵カードのバリエーションを増やすことで、児童の興味、発達段階に応じたカテゴリー設定ができる。
- ②写真カードを使うことで児童の興味をひくことができる。
- ③枠の線の色を変えることで区別がわかりやすくなっている。

## 教材の使い方 (指導方法)

- ①一番上の大きな枠に、カテゴリー分けの絵カードを貼る。
- ②絵カードを貼った後に「食べ物」、「着る物」等の用途を言葉で伝える。
- ③各カテゴリーごとに写真カードを絵カードの下に貼っていく。  
－写真カードを貼りながら各物の名称や用途を適宜言葉で伝える。





# もとちゃんの「前後」「左右」に動いてみよう ～方向を覚えよう！！～

## 対象児童・生徒

国語の学習グループで、反対言葉の単元の中から、「前後」「左右」の指示に沿って動く学習で使用。  
お互いに、友達に対する関心が希薄なグループの中で、自分や友達の活動に興味を示してもらうために使用した。また「前後」「左右」などの学習には、向きのある対象物が必要であるために使用。

中2 知的障害学級

太田ステージ II ～ III-1

しかちゃんもいるよ！



## ねらい

- ・ぬいぐるみの向きを意識しながら指示を聞いて正しく動くことができる。
- ・「前後」「左右」を理解して正しく動くことができる。

- ・茶色とベージュの生地を使って、パーツごとに縫い合わせた。
- ・型紙は、テディーベアの型紙を元にして、もとちゃんに近づくようにアレンジした。
- ・友達とのかかわりが希薄な生徒が集まるグループであるため、友達の活動に興味を示したり反応したりすることがなかったが、もとちゃんぬいぐるみが登場すると、友達の活動に注目し、「ちがう～！！」といたり、指をさして正しい場所をしめすなどの新しい反応が見られた。
- ・正解した生徒は、抱っこできる特典を付けると、ふわふわの感触を楽しんでいた。

## 教材の使い方 (指導方法)



- ①立ち位置を言葉のヒント入りのカラーマットで示し、自分が動く場所をわかるようにする。
- ②ぬいぐるみの向きを意識しながら、「前」「後ろ」「右」「左」など正しい位置に移動する。
- ③前後、左右を理解してきたら、マットをひっくり返して、言葉のヒントを見ずに動いてみる。
- ④更に、ポインティングマットを撤去しても、指示にしたがって正しい位置に動けるようになることが目標。
- ⑤最終的な目標は、友達や教員の前後左右に指示とおりに並んだり、整列したりできるようになること！

# 運筆教材

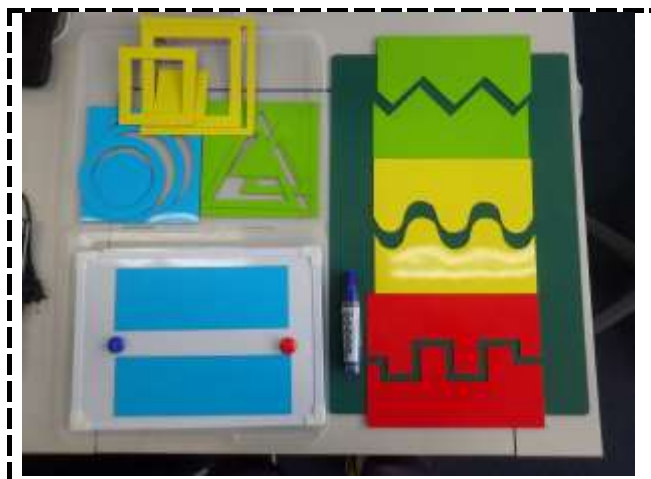
～自分で、気づいて ピタッ！と止めよう～

## 対象児童・生徒

- ・書字の導入。
- ・直線書きにおいて、始点を見て、ペンを置いて書字をスタートできるが、終点を意識することが難しい生徒。

N 中1 自閉症学級

太田ステージ II ~ III-1



## ねらい

- ・終点の位置でペンが止まる経験、自分で止める経験を積む中で、終点が意識できるようになる。

- ・このプレートを、卒業した際に、書字の実際の感覚と大きな違いが出ないように、出来るだけ薄く、丈夫な素材を使用した。
- ・終点に本人が気がつくように、終点付近にマグネットを配置し、意識できるようにした。
- ・繰り返しの学習ができるように、ホワイトボードを使用した。

## 教材の使い方 (指導方法)

- 1 ホワイトボードに、シートを設置する。  
→マグネットシートを用いているので書字の際に動かないようになっている。
- 2 始点、終点が生徒の実態に合うように微調整する。  
→始点、終点には学習する生徒が興味を持てるシール等を貼ることも可能。  
→書字の幅については個々に応じて調整が可能。
- 3 始点にペンを置いて、学習スタート。  
→自身で気がつき、終点でペンを止められた時は、賞賛をする。  
→適宜、手を添えることや、「ストップ」といった本人にわかる言葉かけを行っていく。  
→回数等の「達成シート」は現在作成中。当日決めた課題が終わったら学習終了。

# 消しゴムパズル ～見比べる力を育てる～

## 対象児童・生徒

・対象物を注視したり、形を見分けたりする力を育てたい児童向けの教材です。

N 小4 重度・重複学級

太田ステージ I



## ねらい

- ・色や形の違いを見て、弁別する。
- ・一人で課題をやり切る力をつける。

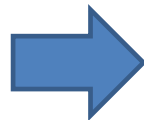
## 【作り方】

- ①ケースの大きさに合わせて、仕切り板を15分割になるように組み立てる。
- ②消しゴム(おやつ、果物など)の写真を撮り、15個分仕切り板の大きさに合わせてシートを作成する。印刷・ラミネートし、ケースの底に置く。
- ③組み立てた仕切り板をケースに入れる。

## 教材の使い方 (指導方法)

●国語・算数の個別課題で使用します。

- ①ケースの蓋の所に消しゴムを置く。
- ②児童が一つひとつ写真に合わせて、消しゴムを所定の場所に入れる。
- ③全て入れ終わったら、教員に「終わりました」と報告をする。その後、キャスターの棚に片付ける。



# 色のマッキング

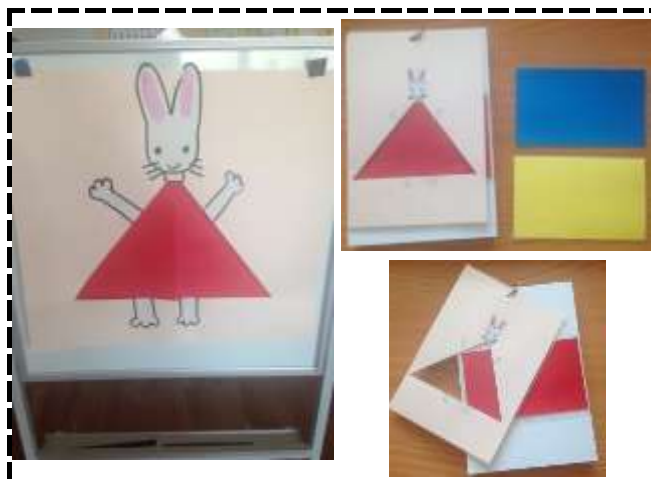
## ～わたしのワンピースdeマッキング～

### 対象児童・生徒

重度・重複学級の生徒も所属する国数のグループで使用しました。ものや形のマッキングが可能な時のある生徒が半分くらいであるが、ものの名称となると、全員なかなか正解するのが厳しい様子です。

N 中1

太田ステージ I ~ II



### ねらい

- ・見本を見る力を伸ばす。
- ・同じことをするというルールがわかる。
- ・同じ色を選択できる。
- ・色の名称を覚える。

色カードを置く場所を型抜かないと置く場所に困るかと思ったら、意外に大丈夫だった。  
洋服部分は、切り取ってラミネートすることで下に置いた色画用紙の色が出るようにした。

### 教材の使い方 (指導方法)

- ①導入として「わたしのワンピース」の読み聞かせをする。(本授業では、静止画に注目することが困難な生徒もいたので、YOU TUBEの動画の映像を流しました。)
- ②見本となるウサギをキャスター付きのホワイトボードに貼りつける。
- ③②を提示し、反転させて中に色紙を貼り付けて再び提示する。(色つきのワンピースを着用した状態になる)
- ④生徒が操作する机上用教材を提示する。
- ⑤見本と同じ色のカードの選択をする。
- ⑥選んだカードを机上用教材に台紙の上に置き、ウサギのラミネートをかぶせる。
- ⑦同じ色のワンピースを着用した様子になる。
- ⑧マッキングできたか、確認する。

# 色分け課題 ～よく見て分けよう～

## 対象児童・生徒

- ・ 注目時間が短い(単色の色分けができる)児童生徒。
- ・ 小さな容器に入れるので、手指の操作性を高めたい児童生徒。

N 中1 自閉症学級

太田ステージ I ~ III-1



## ねらい

- ・ 注目するのが短い児童生徒に、2色の組み合わせの違いを使うことで、注目時間を長くなるようにしたい。
- ・ 小さな容器に入るように小さなカードを指先を使って操作をさせたい。

- ・ カードの裏表に同じ色合わせのシールを貼ることで、裏表に関わらず分けることができる。
- ・ 同じ色を使って組み合わせを変えているので、色ではなく組み合わせに注目しないと正しく分けることができない。
- ・ カードを変えることで、分ける器を変えずに、単色から2色、3色…と1枚のカードの色の数を増やして難易度を上げていくことができる。

## 教材の使い方 (指導方法)

- ・ フタ裏についたカードをヒントに分けます。

① 2つの種類だけでわかる。(2つの容器のふたを開けておく)

1つは同じ色なので、2色のうちどちらかひとつの色に着目すれば分けられます。3パターン。

② カードの方向をそろえて(ガイドのカードと同じ方向で)3種類のカードを分類します。

③ カードの方向をそろえずに3種類のカードを分類します。

④ カードのシールの色を変えて飽きないようにしたり、シールの数を増やして難易度を上げたりします。

# 赤と青を見比べよう ～色と大小の弁別～

## 対象児童・生徒

文字の学習に入る前段階の学習です。色や大小の違いに目を向け、基礎的な認知を高める教材です。

外界に興味を向けられる児童や生徒向けで、手指の操作の苦手な児童生徒を対象としています。

N 重度・重複学級

太田ステージ I ～ II



## ねらい

- ・色に対応する違いを理解し、ピースを入れてることができる。
- ・大小の違いの理解に注目できる。

- ・操作性に課題のある児童生徒向けに、形を円にして入れやすくした。
- ・色を可変式にし、様々な順序の手だてを講じられるよう配慮した。
- ・大小のピースと円の中の色に注目し、興味をもって学習できた。

## 教材の使い方 (指導方法)

- ・色が入ったカードをヒントに、大小の円ピースを入れる活動に取り組みます。

①色カードに注目させる。



②対応するピース（大小や色の提示の組み合わせは実態と課題に合わせる）を円の中に入れる。



③ ①と②を繰り返す。

色カードは差し替えをしながら活用する。理解度により左右や大小の色を変えた高度の弁別学習に移行する。

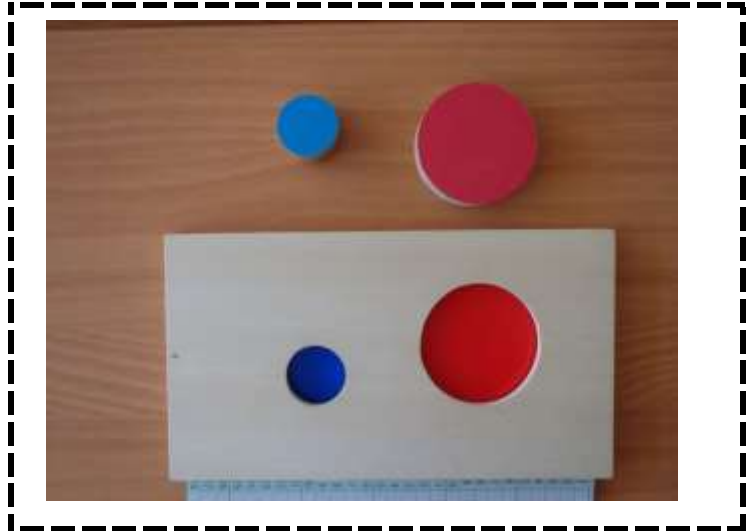
# 大小と色の弁別 ～よく見て、聞いて!～

## 対象児童・生徒

- ・対象物を注視したり、形を見分けたりすることが苦手な生徒向けの教材です。
- ・手指の巧緻性を伸ばすと共に、色の弁別学習入門～向けの教材です。

N 中1 重度・重複学級

太田ステージ I ~ II



## ねらい

- ・形や色の違いに注目し、弁別する。

- ・色の組み合わせが自由にできるようにした。
- ・主に国語・算数の個別課題や、コミュニケーションの指導で使用。

## 教材の使い方 (指導方法)

- ・同じ色で大小の弁別ができてから、色を組み合わせるとりくみます。

①初めは同じ色でスタート。

②大小ができるようになったら、色を変化させて提示する。

③できた時には、フィードバックをしっかりとる。

色は入れ替えるようにし、飽きずに取り組めるようにします。



# 同じマークをさがそう！

～よく見て よく考えて～

## 対象児童・生徒

- ・文字の学習に入る前段階の学習です。絵に合わせたマークを理解し、規則性を学ぶ教材です。
- ・乗り物に興味のある児童向けで、手指の操作が苦手な児童を対象としてキャップを使用しています。

N 小3 重度・重複学級

太田ステージ II ～ III-1



## ねらい

- ・絵に対応するマークを理解し対応させる。
- ・マークなどの形の理解を深める。

- ・カードが取りにくい児童向けにペットボトルキャップを使用した。
- ・絵カードをステップ可変式にし、パターンにならないようにした。
- ・絵カードとマークの対応を理解し、興味をもって学習できた。

## 教材の使い方 (指導方法)

- ・絵とマークの入ったカードをヒントに活動に取り組みます。

①絵とマークの入ったカードの決まりを説明し見本を見せる。

②上の段の絵カードに対応するマークを探す。

③対応するマーク（ペットボトルキャップ）を下段に入れる。

④ ②③を繰り返す。

上段の絵カードは差し替えながら活用する。理解度により文字へと移行していく。



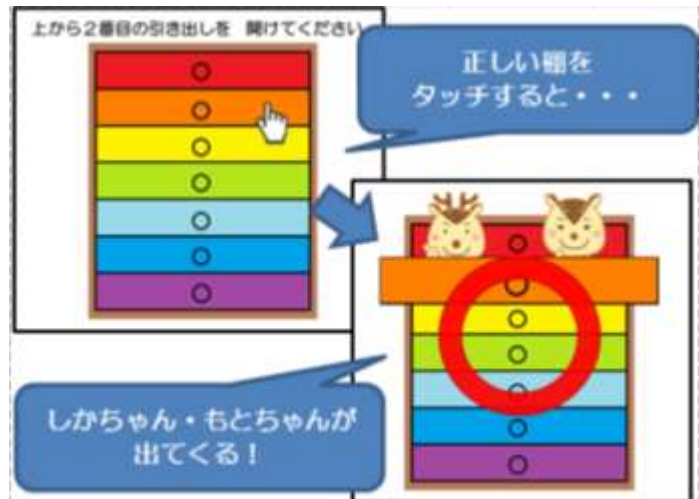
# 虹の棚 ～どの引き出しかな～

## 対象児童・生徒

- ・色や数字の理解や、上下の概念形成が難しい児童向けの教材です。
- ・注目するのが難しい児童向けの教材です。

N 小6 自閉症学級

太田ステージ II ～ III-1



## ねらい

- ・色や数字を見分けることができる。
- ・上や下からの順番を数えることができる。

・パソコンをテレビに接続し、大きな画面で学習に取り組む。

・児童の実態に合わせて、問題を設定している。

例①「赤の 引き出しを・・・」

例②「2の 引き出しを・・・」

例③「上から2番目の 引き出しを・・・」 など

・主に国語・算数の集団学習で使用している。

## 教材の使い方 (指導方法)

- ① 1人ずつ前に出て問題を読んだり、聞いたりする。
- ② 正しいと思う引き出しにタッチ！（同時に教員がクリック！）
- ③ リンク先のページに飛び、正解ならば、しかちゃんもとちゃんが登場！
- ④ 正解のチャイムが鳴ったら、みんなで拍手！

※誤答の場合は元の場面に戻り、再挑戦します。

# 微細運動（色分け） ～SUPER POWER UP 箸～

## 対象児童・生徒

- ・箸が使えるものの、課題に集中する、手と目の協応が課題になる児童。
- ・色弁別の課題の児童

N 小6 知的障害学級

太田ステージ I ~



## ねらい

- ・同じモールに掴んだモールを入れる(色弁別)
- ・箸の使い方など、微細性を養う。

### 【工夫点】

- ・写真カードを各ブースに入れるよりも実物を入れることで間違えず入れられるようになった。
- ・モールなので、小さくとてもつかみにくいですが、逆に箸の使い方として、力加減をしながら取り組める。

## 教材の使い方 (指導方法)

本学習教材は、自己学習課題として使用している。自分でできる課題を主にしている。

- ・器に入っている12色のモールを同じ色のモールが入っている所へ入れる。

↓

- ・最終的に合っているかどうかを教員と一緒に確かめる。